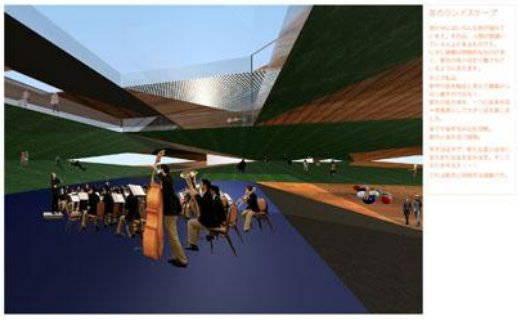
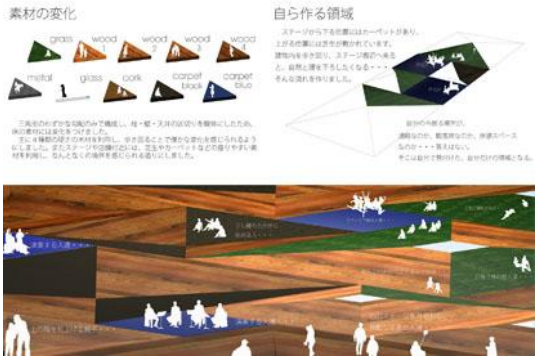
銅賞　遠藤　光君

北海学園大学工学部建築学科　　音のランドスケープ

都市にはどれほどの量と種類の音が存在するのであろうか。我々が気づかないほど麻痺してしまっている騒音や、心を左右する自然の音、創造された音楽。私達はなんとなくそれを受け入れながら生活している。そんな日常の中に建築というフィルターを通して音をランドスケープし、建築化させた作品がこれである。そのオリジナリティーあふれる美しい造形、素材の使い方や四角錐の合わせに何か「新しさ」を感じた。音という着目点もなかなか良い。建築化する上で人と音との関係性が不明瞭なのと、機能性と形態の論理性が弱く感じられた点が残念である。

（文責：中山　眞琴君）